

自立した主権者 をめざして



Vol.15 あなたの中の凡庸の悪

KEYPOINT

- あなたは、衆議院選挙、市長選で何をどう周りと話しましたか。
- 自分にとって凡庸の悪とはどのような事ですか。

SUMMARY

例えばヘイトスピーチや人種差別意識を先導するネットの書き込み。それに「深く考えずに」賛同する普通の人々。私たちの周囲は多くの「悪」が存在します。しかしその多くは平凡で、ふつうに穏やかで、おとなしい人の悪行であり、それゆえに決定的な悪人のそれよりも根深く、悪質です。私たちにとって凡庸の悪とは何でしょうか。



現代における「凡庸の悪」

ユダヤ人の政治哲学者ハンナ=アーレントは、ユダヤ人を強制収容所に移送する実務を担ったナチスドイツの役人、アイヒマンが屈強な戦士でも、狂信的な反ユダヤ主義者でもない、どこにでもいる「普通の人」だったことから、彼の非道的な任務への従順さに対して、「凡庸の悪」という評価をしています。これは、ヒトラーからの粛清を恐れた結果であったり、彼自身が残虐な人間であったりということではなく、自分の仕事の結果として何をもたらすか深く考えなかった、彼の想像力の欠如を指しています。

私たちは「善と悪」を行動の両極にあるようにとらえていますが、それは違うのかもしれない。善と悪はあいまいな境界をもちながら連続しているグラデーションのようなもので、私たちの行動は、その間をふわふわと行き来しています。だから意識の持ちようで、簡単に流されてしまうのだと思います。深い意図から大きな悪が生まれるのではなく、普通の行動をとっているつもりで大きな悪を引き起

こしてしまう。だから凡庸の悪について書かれている彼女の著作のタイトルは「エルサレムのアイヒマン」で、その副題は「悪の陳腐さ」なのです。陳腐とは「ありふれていてつまらないこと」、つまり、悪は私たちの誰でもが犯しうる普通のことなのです。

先日子育て世帯への臨時特別給付金を、現金にするかクーポンにするかについて多くの自治体で議論がなされました。決定までの過程は、できるだけ速く、低コストで支給したい、現金がほしい、という思いと要望に流されたように感じました。10万円を配ることが悪いわけではありません。方法をどうするかという話の前に、子育て支援に特化するのか、経済循環も視野に入れるのかという議論もなしに

「ただ良いことだから」という結論を出すこと。結果が同じであっても、これは凡庸の悪の例となります。つまり、この凡庸の悪という言葉は戦時中という非常時にとどまらず、いつ、どんな時代でも起こりうる普遍的な人間の性を表しているのです。他にも今回の選挙の投票率の低さ。国会議員の文書通信交通滞在費の問題、緊急事態宣言解除後の私たちのコロナ感染への意識の変化。日々の暮らしの中で、いったい私たちはどれほどの凡庸の悪と出会っているのでしょうか。

1人で答えを出すことの怖さ

凡庸の悪はまた、多数の「無責任な行動」が起こす統治機構へも影響します。何かの課題に対して勇

気を持って立ち上がった人たちが社会を変えるムーブメントを起こしていくわけですが、一緒に立ち上がっている「ふり」の人たち（凡庸の悪）の基準を持たない判断からくる行動が統制を崩し、目的を達成できないことはよくある事です。「アドバイス」という体で様々な意見を述べ、協力をにおわせていた人が、「ではあなたがやってください」と言われた途端にその場から退くという経験は誰もが持っているのではないのでしょうか。他者と協力して何か一つの目的に向かうことの難しさは、ここにあります。どんなに崇高な理想を掲げても、どんなに緻密なマニュアルを作っても、人は思うように動きませんし、思う通りの結果を得ることはできません。何か行動を起こすときの判断は、最終的には自分で行うものですが、その決断に至るまでのプロセスを1人で行うということは、結局思考していない（自己完結）と変わりません。また、1人で行う決断は、その後の振り返りができず、説明ができないため、結局次に生かすことが出来ない場合が多くあります。だからこそ物事を進めていくための判断の基準を共通認識として持つことが一番大切で、そしてそれが一番難しいことなのです。

他者との対話を通じて自己と向き合う

凡庸の悪の形は様々で、そのために私たちは皆そこに陥る可能性があるのですが、共通して言える

一緒に
考えてほしいこと

- ・あなたの周りの凡庸の悪に気付いたことはありますか？
- ・自分との対話を意識したことはありますか？

【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所：埼玉県越谷市大里 226-1 白川ひでつぐ事務所

担当：吉田理子

ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP 埼玉読者会 note



がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義」を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。

事は、「自分を持っていない」「自己との対話ができない」「自己との対話がない」場合に発現するという事です。自己との対話というと、前述の、決断までのプロセスを1人で行わないという点と矛盾するように思えますが、自己との対話は1人で行うものだけではありません。他者と交わり、対話をするなかで自分の立ち位置や考え方の傾向を認識することは、客観的に自分をとらえることとなります。他人との境界線で自らを形作れば、善と悪が入り混じったいびつな自分が見えてくるのではないのでしょうか。

凡庸の悪はいつでも身の内にある。そのうえ流されやすいものであるとすれば、常に自身にそのことを問う環境が必要です。それがつまり対話であり、その対話を絶えず行える場所としてコモンズの形成が今後必要不可欠なものになるのです。

〈機関紙「日本再生」No.510 の内容〉

2021/11/01 発行

市民と野党の共闘の深化－そして民主主義のためのコモンズの形成とその経験知の集積を

- 2-3 面/コラム/一灯照隅 ●3-4 面/特別会合報告 ●4-6 面/インタビュー/デジタル時代の監視と自由/百木 漢・関西大学准教授に聞く ●6-8 面/インタビュー/9.11 からカブール陥落/末近浩太・立命館大学教授に聞く

※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。